令和２年度

全中道研　会報

No. 2　　令和２年 12 月 11 日

全日本中学校道徳教育研究会

地域と深い絆で結ばれていることを確信した副会長会

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
会長　吉田　　修

コロナ感染が収まらず急速に感染が広がる中、生徒のために教育活動を工夫しながら取り組まれている関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、１０月３１日に各ブロック代表である副会長に声をかけ、オンラインを活用したズーム副会長会を行いました。各地域でも会議がなかなか行えない中、オンラインではありますが初めて全中道研として副会長の皆さまと画面を通してではありましたが話ができたことに安堵いたしました。

それぞれの地区でコロナ対策を講じ、苦労を伴いながら教育活動を前進させている様子がひしひしと伝わってきました。道徳教育についても同様です。研究発表会を中止せざるを得ない状況に追い込まれた地域や学校では、今後の道徳教育を如何に推進していくべきかという課題に直面しています。収束に見通しが立たない中で実施する研究大会は、各関係者と協議をしながら進めていく必要があります。道徳が「特別の教科　道徳」として出発し、全国で道徳熱が高まってきた矢先にコロナの影響で出ばなをくじかれた思いであります。

しかし先日の副会長会では、道徳教育の高まりを今以上に推進していこうという副会長の皆さまのご意見に対し勇気づけられました。道徳教育に対する熱い情熱をもたれている副会長の皆さまはもちろん、各地区で推進役として力を発揮されている理事の皆さま、さらには生徒を前にして常日頃から道徳の時間に授業をしていただいている先生方にこの熱き思いを共に共有し進めていかねばならないという使命感を会長として感じました。

先月、令和２年度全中道研会報　第１号を関係者の皆様に送付させていただくとともにホームページにも掲載しました。今年度から会報を充実させ、全国の皆さんと情報を共有し、できる限り会員の皆様の活動が見える形でお伝えできればと考えているところです。

互いの活動や取組を知ることで、会員同士が切磋琢磨し道徳教育を進めていくことが目的です。各地区により状況は異なります。ブロックの中で解決できる課題もあれば、ブロックを越えての課題もあります。その支援を全中道研が担っていると考えています。

日本全国の中学生の道徳性を高めるための道徳教育の推進に向けた取組が求められていると思います。

「今までできたことだから、今後も続ける」、「できないことでも、できるように考える」、この二つについて新たな発想で考え、実践していく行動力が求められている気がします。

今年度、それぞれの地区で計画していた研修会、研究発表大会が行われない状況下にあるかと思います。予定していた取組ができないから、そのままにしておくのか。それとも形を変えてできる範囲で工夫をして行うのか。考え方一つで変わってきます。課題に向き合い、一つでも課題を克服し、それを超える力を得たとき、全中道研はさらなる発展を遂げていくことでしょう。

そして道徳教育を推進する我々にとっても、今まで以上にかけがえのない深い絆で結ばれると思います。

四国地区の研究大会の実施状況並びに第５４回高知県道徳教育研究大会のご報告

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
副会長　島内　祥夫

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、教科化された道徳科の指導の質的な向上を目指した研究活動の実施がままならない状況になっている。四国地区では、香川県においては当初より休会であったが、愛媛県においては研究大会の開催が中止、徳島県においても研究大会の開催は中止とし、大会紀要の作成・発行となった。

令和２年１０月２９日（木）、３０日（金）の両日、高知市立一宮中学校を主会場として開催予定であった、第５４回全日本中学校道徳教育研究大会（高知大会）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響により、中止となった。全中道研大会の長い歴史の中でも初めてのことである。全国の道徳教育を熱心に取り組んでおられる皆さんをお迎えし、高知県の道徳授業を見ていただこうと５年前から授業実践を積み重ねてきた会場校の教職員の顔を思い浮かべた時、無念な気持ちが込み上げてきた。

令和元年１０月２５日、第５３回全中道研鳥取大会の閉会式において、第５４回大会実行委員長よりご案内を申し上げたものの、その任を果たすことができなかった。ここに、この紙面をお借りし、高知大会の大会主題等についてご報告を申し上げたい。

大会主題を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の展開」、サブテーマを「自らを見つめ生き方を深く考える道徳科を要として」として、これから求められる道徳科授業についての提案を予定していた。

児童生徒が道徳的価値との関わりにおいて自分自身を見つめ、将来いかによりよく生きるかということについて考えを深め、自らの道徳性を高めていくことができる指導を行うことを目指している。その過程で、児童生徒が考えを深めるために問いかける対象は、教材や資料など自分の外側にあるものではなく、児童生徒自身の内側にある。授業では、児童生徒が内面において自分への問いを発し、自己内対話を深めることができるような指導を考えるようにしている。

児童生徒の自己内対話の起点は、それまで当たり前と思い込んでいたことや考えてみることがなかった視点や着想、発想による問いに触れ、自分自身の在り方や考え方を問い直すことにあると考えられる。児童生徒が学習の過程において道徳的な問題に立ち止まり、自分への問いを抱く手掛かりは、児童生徒にとって深く考えるに足る発問の構成や他者の多面的・多角的な考え方への考察にあるだろうと考えている。そして、児童生徒が自分自身に問いを発し、自分自身の在り方や生き方を考える先に、それぞれの自分自身のよりよい生き方の追及があると考える。我々指導者は、児童生徒が問いを持つ授業を志向するとともに、自分自身への問いを持ち続ける児童生徒を育成する道徳授業を構想する必要があると考え、実践を積み重ねてきた。

令和２年１０月３０日（金）、コロナ禍の中で、大会規模を大幅に縮小して高知市立一宮中学校を主会場として、第５４回高知県道徳教育研究大会を開催した。全学年で８本の授業を公開し、今求められている道徳科授業の在り方について協議を深めることができた。

授業では、教材に描かれている道徳的な問題に対する自己の考えを、ペア等での対話を通して友達と交流し、「自分はどうか」とさらに自己に問いかけ、生き方についての考えを深めていく授業の一端を公開することができたと捉えている。

大会講師として、国立教育政策研究所より飯塚秀彦調査官にお越しいただきご指導をいただくことができた。

大会の開催に当たって真摯な取組を行っていただいた高知市立一宮中学校の校長先生をはじめ教職員の皆様方に厚くお礼を申し上げ、大会の報告とさせていただきたい。

来年度の
中国大会に向けて

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
副会長　山本　　優

令和元年１０月２４日（木）・２５日（金）に、鳥取県鳥取市で開催した、第５３回全日本中学校道徳研究大会鳥取大会（兼第４回中国地区中学校道徳教育研究大会鳥取大会）での成果をもとに、令和３年１１月１９日（金）、山口市周南市において、第５回中国中学校道徳教育研究大会山口大会を開催する。

研究主題を「人間として、共によりよく生きようとする力を育てる道徳教育」～「考え、議論する」道徳科の授業の創造と実践～とし、中国地方各５県で研究を進めている。

当日は、周南市立岐陽（きよう）中学校、周南市立住吉中学校での６クラスの公開授業の後、研究協議を行います。昼食休憩の後、会場を周南市総合庁舎（予定）に移動し、課題別分科会を行う。

課題別分科会では、
〇道徳教育の推進体制の確立
〇道徳科の特質を生かした学習指導の展開
〇現代的な課題に対応した道徳科の工夫
〇道徳科における指導と評価のあり方
を主テーマとし、中国５県からの研究発表と協議を予定している。

その後、改めて大会としての研究発表を開催県である山口県が行い、最後に、文部科学省教科調査官、飯塚秀彦様によるご講演を計画している。

まもなく一年になろうかというコロナ禍の中、研究授業等を通じての多くの参加者による研究協議等の開催が難しい中、発表を控える各学校単位で研究を進めている。開催県である山口県では、課題別分科会での発表者を中心に、定期的に情報交換の場を設定するほか、プレ大会としての研究発表会を、担当する学校等の関係者のみで開催することも予定している。

一方、全国的には、新型コロナウイルス感染者数は増減を繰り返し、大会開催に向けて、安全面の確保を中心に準備を続けている。

新規感染者が減少することを前提に、安全対策（参加者の事前の健康チェック、当日の検温、授業参観や課題別分科会でのソーシャルディスタンスの確保等）が十分にできるよう、「学校における新しい生活様式」を参考に検討中である。

また、新規感染者数の推移により、大会の開催が難しくなった状況においても何らかの提案ができるよう、研究主題にもある、「道徳科の授業の創造と実践」に向けた研究は鋭意継続中である。

道徳科の授業の成否を握るのは何と言っても発問である。しかしながら、実際に行われている授業を見ると、「資料が持つ力」に頼り切ったものが多くなりつつあるのが気になります。具体的に言うと、感動資料としてまとめられている「いい話」を生徒とともに読み味わうような授業が増えていることがその一つの現れです。一見つけ入る隙のないような資料に対して、積極的に切り込んでいくことができる発問作りに取り組んでいる。

また、近年の子どもたちはその経験や体験の不足によって、授業者が期待する考察や発言をすることが難しくなっている。その状況を打開するために、今我々は、「選択肢」を提示し、選んだ根拠を明らかにさせることで、生徒の積極的な参加を促そうと考えている。授業で話題になっていることに関する直接的な体験はなく、皆目見当はつかないけれど、提示された「選択肢」から選ぶ活動なら、なんとかなるという生徒は多くいる。

紙面の都合上、全てをご紹介することはできないが、是非成果をご紹介できることを関係者一同祈っている。

困難を乗り越えて

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
副会長　荒川　芳央

１　令和２年度の北海道ブロック活動状況

道内 17 の支部によって各地区の活動が進められているが、コロナ禍の影響は避けられず、どの支部でも活動の中止や規模の縮小を余儀なくされ、会員相互の交流を深める活動は困難な状況となっている。そんな中、どの支部も組織づくりの時点から苦労しつつも、何とか会議のオンライン化などの工夫により、今年度の研究会の組織を立ち上げ、徐々に研修・研究体制を整えつつある。

今年度予定していた、「第５５回　根室・中標津大会」は、昨年度より着々と準備を進めてきたところであったが、４月の役員会にてやむなく中止を決定した。

これに伴い、令和５年度の全日本中学校道徳教育研究大会・函館大会までの北海道大会の日程を検討し直した。その結果、根室・中標津大会は、苦しい中ではあったが、開催地理事を務める校長先生をはじめ、先生方の研究の積み重ねを無駄にしないという思いから２年後の令和４年の開催へ延期とすることにしている。

現在は、令和３年度の胆振・伊達大会の開催に向けて、様々な制限がかかる中、胆振支部を中心に精力的に開催への準備を進めている。

２　今後の主な予定

（※新型コロナ感染症の状況によっては変更もある）

・授業研
　（函館・空知・日高　１０月～１１月）
・冬季研修会の開催
（上川・函館・オホーツク・釧路　１～２月）
・講演会
（苫小牧・札幌　講師：毛内嘉威氏　１月）
・オンラインでの授業研修・学習会
（札幌・釧路・帯広　１０月～２月）

３　令和３年度以降の北海道研究大会の予定

・令和３年度　第５６回北海道大会
　胆振・伊達大会　１１月１２日～１３日
　開催地：伊達市
・令和４年度　第５７回北海道大会
　根室・中標津大会　　期日未定
　開催地：中標津町
・令和５年度　第５９回全小道全国大会
　　第５７回全中道全国大会
　　第５８回北海道大会
　函館大会　　期日未定
　開催地：函館市
・令和６年度　第５９回北海道大会
　上川大会　　期日未定
　開催地：未定

４　令和５年　全日本中学校道徳教育研究会函館大会に関する状況

現在、令和５年の開催に向けて、概要を検討中。時期・会場共に未定ではあるが、コロナ禍の中、様々なことに配慮しつつ、必要な準備を進めていく予定である。

１１月４日には、これからの準備を進めるうえでの初顔合わせの会合を開き、函館市小学校道徳教育研究会及び函館市中学校道徳教育研究会が合同の準備会議を開催し、理事の校長先生方をはじめ、組織の主だった先生方により、今後の大会開催に向けた課題や大まかな準備日程についての交流を行っている。

３年後とは言えども、準備期間を含め、新型コロナウイルス感染拡大防止に関しても留意しながら進める必要があるが、工夫しながらさらに検討を重ね、全国の会員の皆様を万全の態勢でお迎えしたい。